



www.fao.org

# テレフード

## 主な動き

テレフードに寄せられた寄付金は2,800万米ドルを超えます。

1997年以来、130カ国で2,700件を超えるテレフードプロジェクトが承認されています。その大半はアフリカですが、アジア、ラテンアメリカ・カリブ海、近東、太平洋、欧州の各地域でも実施されています。

テレフードプロジェクトは小規模で自立型のプロジェクトで、費用は5,000～1万米ドルです。

プロジェクトでは最貧困層が生産手段を改善して食料を増産し、現金収入を得ることができるよう、そして食料を手に入れやすくなるよう目指します。

## 飢えに苦しむ人たちの食料自立を助ける

テレフードは、開発途上国で起きている飢餓に対する関心を高め、飢えに苦しむ人々の自立を助ける少額（マイクロ）プロジェクトの資金を集めることを目的に、年間を通じて放送番組やコンサートなどのイベントで積極的なキャンペーンを展開しています。キャンペーンは支援したい人々と、飢餓に苦しむ家族や地域社会とを直接結び役割を果たします。

## テレフードの募金方法

テレフードの資金源は、個人や企業スポンサーからの寄付です。1997年の開始以来、数多くのコンサート、スポーツイベント、テレビ番組などを通じて飢餓撲滅プロジェクトの資金を集めてきました。テレフードは直接的な寄付行為のほか、放送番組やイベントの制作ボランティアや、募金イベントに出演する、あるいは活動の賛同者として名前を連ねる著名人によって支えられています。開始以来集まった寄付金の額は、2,800万米ドルに上ります。



©FAO/Giuseppe Bizzari

ドミニカ共和国でテレフードプロジェクトは市場向け農産物の加工を支援しています。

## 効果的な小規模プロジェクト

テレフードの資金は食料不安に苦しむコミュニティを直接援助するプロジェクトに充てられます。こうした小規模プロジェクトによって、農民が収入を増やし、生産性を高め、健康な暮らしを送るうえで必要な食物を栽培あるいは購入できるようにします。

テレフードプロジェクトの活動にはいくつかの指針があります。

- 規模は小さく、種子、農機具、送水ポンプ、小動物などの物資を直接援助する。
- プロジェクトは個々のニーズに合わせて実施し、持続可能で環境上安全なものとする。また追加的な支援がなくても継続的な恩恵がもたらされるようにする。
- プロジェクトは他の開発プロジェクトと連携し持続性が維持され、技術支援が得られるようにする。
- プロジェクトはFAO加盟国あるいは農村コミュニティが直接申請し、FAOの技術専門

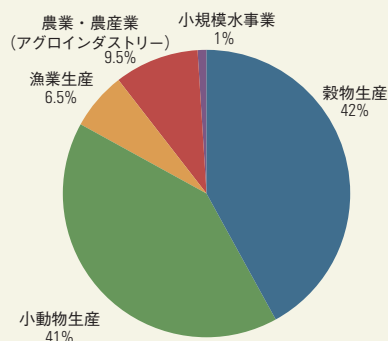
家が承認する。プロジェクトの平均費用は約7,500米ドルで、1万米ドルを上限とする。資金は種子、農機具、最初の家畜（starter livestock）、農業資材（field supplies）、非動力機などの資材に全額充てられ、運営費用には用いられない。

■ プロジェクトは農業、畜産業、漁業に分類する。

穀物生産プロジェクトでは、主に穀類、根菜類、イモ類、果実、野菜を栽培し、小動物プロジェクトでは、家禽、ウサギ、ヤギ、ヒツジ、ブタを生産します。漁業プロジェクトでは、小規模養殖と零細漁業の振興に力を入れています。

こうした小規模プロジェクトによって、農村世帯は健康に良い食物を手にするようになり食生活が向上するほか、余剰生産物を地元市場で販売することで、収入も増加します。

種類別テレフードプロジェクト



出所: FAO

## 女性と若者の重視

世界の飢餓人口の大多数を占める開発途上国の農村では、女性が食料生産の大半を担います。テレフードプロジェクトでは女性に重点を置き、食料生産・加工を拡大し、世帯が安定して食料を確保できるようにします。スクールガーデンプロジェクトは、若者に食料の生産方法を教えるとともに、栄養価の高い食物を提供します。

## スクールガーデンで十分な栄養を得る

飢えや栄養不良は子供の成長を妨げ、学習能力を低下させます。学校の庭で食物を栽培することは、栄養価の高い学校給食を出せるだけでなく、学校への出席を促し、成績の向上にもつながります。庭は単に食料を得る場ではなく、農業、栄養、経済について学ぶ場でもあります。テレフードプロジェクトでは、学校の庭に種子、農機具、肥料を提供します。余った作物は販売してささやかな利益を得、次のシーズンに向けて資材の購入に充てられます。

ナタリー・フィリックス（18歳）  
ドミニカ共和国



©FAO/Giuseppe Bizzari

「テレフードの支援で鶏を育てていて、毎朝羽をむしるのを手伝っています。私の住んでいる地域は生活が苦しく、サトウキビ産業もだめになったため、若い人たちにもっと仕事が必要になりました。テレフードのようなプロジェクトは大切です。いずれは大学に入って、技術者か小児科医になりたいです」

マニサ・ラナリジャオナ（11歳）  
マダガスカル



©FAO/Marco Longari

「テレフードのスクールガーデンでモモとバナナを育てています。今日は葉もの野菜を植えました。先生は、作物が少ない収穫前の飢えの時期に野菜を食べるようにと言います。将来は、スクールガーデンで勉強したことを生かして農業をやりたいです」

K・V・リーラセカラ（56歳）  
スリランカ



©FAO/Geert van Kesteren/MAGNUM PHOTO

「ハーブを集めて乾燥させ、伝統的な医薬品の材料として販売しています。事業の成功の秘訣は、太陽光を使ったテレフードの乾燥機です。ハーブ販売で得た収入で、今、家を建築中です。娘たちも大学に通っています」

アイヌール・カブーク（13歳）  
トルコ



©FAO/Ann Vitale

「ポラトリの寄宿学校で勉強しています。クラスの副級長で、毎朝朝食の時にほかの生徒たちを起こす係になっています。食堂ではテレフードの温室で育てたトマトやピーマンが出ます。新しい技術を学んで村のほかの人たちにも教えたいです」

### 地域別テレフードプロジェクト

| 地域           | テレフードプロジェクト実施国数 | 地域内のプロジェクト数 |
|--------------|-----------------|-------------|
| アフリカ         | 43              | 1 306       |
| アジア          | 18              | 345         |
| 欧州           | 10              | 133         |
| ラテンアメリカ・カリブ海 | 33              | 627         |
| 近東・北アフリカ     | 12              | 222         |
| 太平洋          | 14              | 163         |

出所：FAO



国際連合食糧農業機関（FAO）  
Viale delle Terme di Caracalla  
00153 Rome, Italy

電話：(+39) 06 57051  
ファクス：(+39) 06 57053152  
Eメール：FAO-HQ@fao.org

報道機関問い合わせ先：  
電話：(+39) 06 57053625  
ファクス：(+39) 06 57053729